

# 育ての親の恩に感謝

## 残留孤児ら中国で交流会

2009.11.10 朝日



鈴木静子さん（左）と養母の沙秀清さんは、ぴったりと寄り添って座った。9日、中国黒竜江省ハルビン市、大久保写す

【ハルビン（中国東北部）  
大久保真紀】「あなたたちが  
いなければ今の私たちは存  
在しなかった」。日本に暮ら  
す中国残留日本人孤児の代表  
らが9日、中国・ハルビン市  
を訪れ、「中国人民に養育の  
恩を感謝する交流会」を開い  
た。孤児自らが訪中団を組  
み、こうした会を催すのは初  
めて。中国の政府関係者のほ  
か、数少なくなった養母らも

人も招待し、全体で約110  
人が参加。孤児らは感謝の気  
持ちを伝え、日本のお菓子や  
てぬぐいなどを贈った。  
訪中団は秋田から鹿児島ま  
で全国の残留孤児の代表46人  
と支援してきた弁護士ら10  
人。  
訪中団の一人、鈴木静子さ  
ん（65）は東京都荒川区は黒  
竜江省寧安県の難民収容所で  
病に伏していた実母から養母

の沙秀清さん（84）に預けられ  
た。日本人であることを知ら  
れないために沙さんらはハル  
ビン市に転居。貧しい生活の  
中、養父（91年に死去）は食  
堂で働き、親類の援助も受け  
ながら中学校まで通わせてく  
れた。鈴木さんは86年に肉親  
捜しのための訪日調査に参  
加。身元はわからなかった  
が、夫と息子2人と88年に永  
住帰国した。

この日、会に参加した沙さ  
んは「戦争は国と国との間の  
こと。子どもを助けるのは当  
然。（娘は）昔から親孝行で  
明るい子なので、近くにいな  
いのは寂しいが、自分の祖国  
に帰るのも当たり前のことだ  
と語っている」と語った。  
鈴木さんは「私の命がある  
のは養母のおかげ。子どもた  
ちにも戦争のことも養父母へ  
の恩を忘れないように伝えたい。  
彼らが日中の懸け橋にな  
るように願っている」と話し  
た。